

感染研発第699号
令和5年12月18日

各関係大学長
各関係大学学部長 殿
各関係機関の長

国立感染症研究所長

感染症疫学センター サーベイランス総括研究官の公募について（依頼）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、当研究所では感染症疫学センター サーベイランス総括研究官の選考を行うことになりました。

本センターは、感染症に関する情報の収集・分析・結果の提供並びに疫学調査研究やこれらに関する講習を担当しています。本センターは2021年の組織再編に伴い、3人の総括研究官（サーベイランス総括研究官、予防接種総括研究官、疫学研究総括研究官）と1人の企画管理調整官を設置し、14の室から構成されています。

サーベイランス総括研究官は、センター長のもと、サーベイランス・グループ（以下に掲げる事務をつかさどる4つの室から構成される研究組織）を運営することになります。

- ① 第四室（情報分析室）：感染症発生動向調査を含む国内の感染症疫学データの収集、解析及び評価並びに海外の感染症情報機関との情報交換に関すること。
- ② 第五室（情報還元室）：感染症発生動向調査に関する情報還元を目的とした定期刊行物並びにコンピューター通信網を用いる感染症情報の提供に関すること。
- ③ 第六室（次世代情報室）：コンピューター通信網を用いた国内外の感染症に関する情報の収集、解析及び評価並びに新規サーベイランスの構築と分析に関すること。
- ④ 第七室（情報管理研修室）：サーベイランス専門家の養成に関すること。

同グループは厚生労働省、地方衛生研究所並びに所内各部・センター等と連携して感染症サーベイランスシステム（感染症発生動向調査）に関する業務を行うほか、匿名化した感染症関連情報の管理及び第三者提供に関する業務を担当します。

つきましては、貴学（学部、機関）、貴所または関係機関において適任者がおられましたら、下記によりご応募賜りたく、周知方よろしくお願い申し上げます。

記

1. 候補者資格条件

- ① 感染症サーベイランスに関する卓越した見識があること。
- ② 感染症の疫学に関する十分な研究実績があること。
- ③ 国内外の行政機関、医療機関、研究機関等並びに国立感染症研究所内各部・センター等と連

携して感染症疫学センターが所管する感染症サーベイランスに関連する業務に取り組む能力と意欲を有すること。

- ④ 複数の室をまとめる指導力を有すること。
- ⑤ 学位（博士号）取得後4年以上を経過、あるいは同等と見なされる者であること。

2. 提出書類

- ① 履歴書（A4縦版横書き、氏名、性別、生年月日、本籍（都道府県名）、現住所、学歴（高等学校卒業以降）、学位、職歴、1カ月以上の海外歴とその内容、所属学会名、学会等での役職名、国内外の委員歴、賞罰、健康状況等）
- ② 業績目録（A4縦版横書き、別紙様式をご参考下さい。）※corresponding author（責任著者）論文には、必ず各題名の書き出しに（責）と記入してください。
- ③ 主要論文の別刷（写し可）10編以内
- ④ 主要研究概要（A4縦版横書き1枚程度）と応募職への抱負（A4縦版横書き1枚程度）

3. 応募締切日 令和6年1月22日（月） 必着

4. 選考採用試験

- ① 書類選考 令和6年1月下旬（予定）
- ② 面接 令和6年2月下旬（予定）
（面接に際し、プレゼンテーションをお願いする場合があります。）

5. 採用予定日 令和6年5月1日（予定）

6. 書類提出先 〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所長宛
応募書類の封筒には「感染症疫学センターサーベイランス総括研究官応募」と朱書の上、親展とし、書留で郵送して下さい。
なお、提出された書類は返却いたしません。

7. 問い合わせ先 国立感染症研究所 総務部人事課人事第一係 西川・谷内
電話：03-5285-1111（代表）内線2024・2025
E-mail：jinji@nih.go.jp

業績目録

氏名 _____

1. 著書

2. 学術論文(学会誌発表等)

(1) 欧文

(2) 邦文

3. 学会発表(講演・発表等)

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

(記入上の注意事項(共通))

1. 上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名(発表雑誌名)の順で記載し、それぞれを改行すること。
2. 年代の新しいものから順に記載すること。
3. 発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。
(例: Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002)
4. 欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に()書で和訳を記載すること。
5. 各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。(単独は(単)、筆頭は(筆)、その他は(他))
※コレスポンディングオーサー(責任著者)の論文には、必ず各題名の書き出しに(責)と記入すること。
6. 著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。
7. 長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。

(参考例)

1. 著書

- ①労働太郎、厚生太郎
(他炎症の組織病態
〇〇社, PP.67-87, 1989

2. 学術論文

(1) 欧文

- ①Taro kousei, Jiro Kousei, Saburou Kousei, Tarou Roudou, Jiro Roudou, Saburou Roudou
(筆)An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in USA , 2002
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2002年アメリカ)
Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

(2) 邦文

- ①厚生太郎、厚生二郎、厚生三郎、労働太郎、労働二郎、労働三郎
(筆)An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in Oosaka, JAPAN, 2004
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2004大阪)
Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

3. 学会発表

- ①厚生太郎
(単)ラット皮下腫瘍の消長と〇〇〇の相互関係について
第25回日本病理学会総会, 東京, 1989

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

- ①厚生労働科学研究費補助金、(課題名)〇〇〇〇〇
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年
- ②科学研究費補助金、(課題名)□□□□□
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年